

組織目標評価報告書（令和5年度）

部局名：

農学部

学域名：

環境生命自然科学学域(農)

部局長名：

三村 由香里

目標・取組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>【入学者選抜の検証と円滑な高大接続】一般選抜前期日程および学校推薦型選抜において引き続き志願倍率2.0倍以上を維持するため、岡山県内外の高校との交流を深め、志願者の獲得に努める。</p> <p>【グローバルに活躍できる次世代リーダーの育成と入学前教育】「開発目標(SDGs)に貢献する人材養成国際農学プログラム(GAP)」への国費留学生4名の受入を維持し、DX活用による海外選抜実施を継続する。国費留学生4名については入学前教育を着実にを行う。</p> <p>【教育の質の保証と向上】カリキュラムポリシーの改善を行うとともに、学生や教員が理解しやすいように、教育・学修方法に関する実施方針や学修成果の評価の方針を具体的に明示する。また、授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準をもつように、また学修方法に関する実施方針が学位授与の方針と整合性をもつように、ディグリーポリシーの改善に努める。さらに、外部・内部評価による質保証を目的に、各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認する。</p> <p>【教職員の教育能力開発】シラバスの点検・見直しや履修指導体制の確認を行うだけでなく、FA研修会とピアレビューを活用した教員間の教育手法交流を行うことで、教育活動に関し理解し実践すべきことを確認し、研修活動の一環とする。</p> <p>【SDGsを通したリーダーシップや社会課題解決能力の獲得】「地域活性化システム論」、「農家体験実習」、「地域農業活性化実践論」、「岡山大学×真庭市 SDGsを目指す産業体験講座」、「日本農業論Ⅰ,Ⅱ」などの科目を開講し、リーダーシップ教育および実践型社会連携教育を推進する。</p>	(2-2) (2-2) (7-1) (2-1) (3-1) (4-1) (5-1)	<p>【入学者選抜の検証と円滑な高大接続】一般選抜試験において志願倍率2.6倍を達成した。学校推薦型選抜Aについては、岡山県内の農業高校と密接に交流して志願者の獲得に努め、受験倍率2.0倍を維持した。</p> <p>【グローバルに活躍できる次世代リーダーの育成と入学前教育】「開発目標(SDGs)に貢献する人材養成国際農学プログラム(GAP)」の海外選抜により、国費留学生4名を3期生として受入れ、入学前の農学教育を実施している。現在、農学部には15名(国費12名、私費3名)の留学生在籍している。</p> <p>【教育の質の保証と向上】全学の方針に従い、カリキュラムポリシーの改善を行うとともに、教育・学修方法に関する実施方針を明示した。また、学修方法に関する実施方針が学位授与の方針と整合性をもつように、ディグリーポリシーの改善した。さらに、教育の質保証を目的に、各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて確認するだけでなく、学修成果の評価の方針について教務FD委員会を中心に議論した。さらに、保護者懇談会、授業評価アンケート、卒業生アンケートを実施し、教育の質の向上にむけての改善点について検討した。</p> <p>【教職員の教育能力開発】シラバスの点検・見直しや履修指導体制の確認を行うだけでなく、ピアレビューを含めたFD研修会を3回行い、教員間の教育手法交流を通して、教育活動において実践すべきことを確認した。</p> <p>【SDGsを通したリーダーシップや社会課題解決能力の獲得】「地域活性化システム論」、「地域農業活性化実践論」、「岡山大学×真庭市 SDGsを目指す産業体験講座」、「日本農業論1,2」などの実践型社会連携教育を実施し、SDGsを通したリーダーシップや社会課題解決能力の養成に努めた。</p>
②研究領域	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>【山陽圏フィールド科学センターの生産物の販売】 山陽圏フィールド科学センターの生産物の販売を所内の販売所等で行うことで、大学職員、学生のみならず地域住民にも、実際に栽培している箇所がみえるところで生産された新鮮で安心な農産物を提供する。</p> <p>【グッドジョブセンターとの連携】 山陽圏フィールド科学センターの生産物販売に関してはグッドジョブセンターとの連携を強化し、「農業による福祉的雇用の促進」・「福祉的農業の確立」に関して取り組みをすすめる。</p> <p>【公開シンポジウム開催】 農学部主催の公開シンポジウムを開催し、一般市民が農学の実態を理解できる場を提供し、大学と学外の方とが意見交換できる機会を設ける。</p> <p>【公開講座の開催】 農学部主催の公開講座を開催し、一般市民に対して農学を体験できる機会を提供し、農業に関心のある方々への技術・情報提供をおこなう。</p> <p>【地域連携】 共創の場等のプロジェクトを活用して果樹等の生産者との連携をはかる。</p>	1-(1)	<p>【山陽圏フィールド科学センターの生産物の販売】 山陽圏フィールド科学センターの生産物の販売を所内の販売所、近隣のスーパーマーケット等で販売を行った。今年度から、センターの販売物に関する情報をSNSを利用した発信を開始した。</p> <p>【グッドジョブセンターとの連携】 グッドジョブセンターと連携してセンターの生産物の販売を行った。次年度発行される新紙幣にセンターの釣銭機が対応していないかったが、グッドジョブセンターと連携して学長・理事裁量経費を申請して新しい釣銭機を整備した。</p> <p>【公開シンポジウム】 10月21日に公開シンポジウムを「多様化する清酒製造企業の事業展開ー原料調達から販売までー」のテーマで開催した。全国の日本酒の酒蔵の生産者に情報提供いただき、日本酒生産の展望についてディスカッションを行った。合計74名の参加者があった。</p> <p>【公開講座の開催】 公開講座「育てておいしい夏野菜」については4～9月にかけて1週間ごとに実施し合計29名の参加があった。ジュニア公開講座(ライス博士)については6/24および10/14に実施し、23名の参加者があった。</p> <p>【地域連携】 共創の場のプロジェクトを活用して、岡山の果樹生産の進化に関する取り組みを実施した。</p>
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>【産官学連携の推進】産官学連携による共育共創活動ができる教員を増やすため、産官学連携による成果発表会等で若手研究者の成果発表会の機会設置に取り組む。</p> <p>【ダイバーシティの推進】女性教員数及び上位職教員数を増加させるため、執行部内に対策室を設け、新たな女性教員採用ならびに上位職ポストへの応募に取り組む。</p> <p>【若手教員の育成】TT教員、特任研究助教、WTT Jr教員含む若手教員の教育研究能力を強化するため、若手教員との懇談会を数回実施する。</p> <p>【広報活動の強化】農学部の広報活動を高めるため、広報ワーキンググループを設置し、構成員に対する広報活動情報の共有と積極的な広報活動に取り組む。</p>		<p>【産官学連携の推進】岡山県農林水産総合センターとの情報交換会や畜産研究所との成果報告会で若手研究者の成果発表会を開催した。</p> <p>【ダイバーシティの推進】WTT教員の採用を行い、上位流用制度を利用した人事を進めている。女性上位職、管理職への登用を促進するためのFD研修会を開催した。</p> <p>【若手教員の育成】TT教員、特任研究助教、WTT Jr教員含む若手教員の教育研究能力を強化するため、若手教員との懇談会を2回実施し、その懇談会で得られた提案に取り組み、研究スペースの改善など、いくつか実行した。</p> <p>【広報活動の強化】広報ワーキンググループを設置し、高校生に魅力ある広報活動について議論した。その結果をもとに農学部案内をリニューアルした。さらに、広報活動を充実させるため、来年度から学部長を委員長とする広報委員会の設置を決めた。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。